

第2章 宗谷本線・函館本線(和寒＝小樽)

第1節 旅プラン

平成26年6月21日(土)～28日(土)、7泊8日の旅で、宗谷本線の和寒駅から本線の小樽駅までの営業キロ206.9kmを踏破する。その概要は次の通り。

○1日目(6月21日(土)) SKY711便(羽田11時発)で新千歳(12時35分着)まで移動し札幌へ。大倉山散策、友人と懇親、東横イン札幌駅北口泊。晴れ

○2日目(6月22日(日)) 小樽＝札幌(33.8km)踏破、東横イン札幌駅北口泊。晴れ時々曇り

○3日目(6月23日(月)) 滝川＝深川(23.1km)踏破、東横イン旭川駅前一条通泊。晴れ

○4日目(6月24日(火)) 深川＝旭川(30.2km)踏破、東横イン旭川駅前一条通泊。晴れ

○5日目(6月25日(水)) 和寒＝旭川(36.3km)踏破、東横イン旭川駅前一条通泊。快晴

○6日目(6月26日(木)) 滝川＝岩見沢(42.9km)踏破、東横イン札幌駅北口泊。快晴

○7日目(6月27日(金)) 早朝、札幌市内散策。岩見沢＝野幌(22.7km)踏破、友人への感謝・報告会、東横イン札幌駅北口泊。晴れ＋強風

○8日目(6月28日(土)) 野幌＝札幌(17.9km)踏破、新千歳空港温泉で休息。SKY726便(新千歳19時15分発)で羽田(20時55分着)へ。晴れ一時雨



北海道歩き挑戦！！

第2節 1日目：6月21日（土）晴れ

8時前に家内にさがみ野駅まで送ってもらう。横浜8時54分発の羽田空港行きで羽田に向かう。9時半頃、羽田空港駅に到着。第1ターミナルのところを第2ターミナルに誤って向かう。修正に10分位要する。飛行機は余り慣れていないので止むを得ないところであるが。

搭乗手続と手荷物検査をし、22番ゲートに向かう。9時43分、到着。1時間位余裕があったので、長嶋哲夫氏等にSMSを送信する。11時発のSKY711便で新千歳空港に向かう。



新千歳空港駅

北海道は大学時代友人と行って以来、今回2度目である。なお、飛行機での北海道旅行は初めてである。それ故、窓からの風景は非常に興味があった。離陸後の東京湾の風景は、昨年の鹿児島島の旅行や大阪出張等で記憶はあった。今回の便は6A席で翼が邪魔をせず、見晴らしがいい席であった。2月14日小田急トラベルで購入したのがよかった。航空券は往復で何と20,700円と超割安の価格であった。着陸準備段階に入り、北海道の海岸線と思ったら異なった。日本は狭いようで広い。空から見る、日本の美しさを肌身で感じた。12時35分予定通り新千歳空港に到着する。



大倉山

新千歳空港からは12時49分発の快速で札幌に向かう。新千歳空港で切符(1,070円)を購入する際、もう少しで長嶋氏へのお土産をロストしそうになるが、セブンのお守りにより助けて頂く。東横イン札幌駅北口には13時30分頃到着。ホテル前には、久しぶりにお会いする長嶋氏の姿があった。ホテルでチェックインの手続きを済ませ、14時、長嶋氏に大倉山まで案内頂く。大倉山総合チケットを購入する。札幌大倉山展望台リフトと札幌ウイ

ンタースポーツミュージアムで代金は700円だった。運よく所定の人数を越えたため、1,000円が700円と割引になった。14時30分、半袖であったが、リフトに乗ると若干ではあるが少し肌寒さを感じた。流石北海道である。上着の持参は大成功。14時38分、大倉山の展望台に到着する。夫婦連れの方に、長嶋氏と私の写真（カッシー館に掲載）を撮ってもらう。大倉山でやっと飛行機によって生じた耳の不快感がリカバリーされる。展望台で、北海道名物のソフトクリームを頂く。加えて、乾いた喉にソフトクリームは最高の味であった。展望台で40分位滞在する。長嶋さんに、円山球場や札幌ドーム、そして旭川の方角の解説を頂く。15時27分、リフトに乗り下山する。



札幌市内

札幌ウインタースポーツミュージアム

15時35分、大倉山に面した札幌ウインタースポーツミュージアムに入る。長嶋さんに、スノーボードの姿の写真（カッシー館に搭載）を撮って頂く。私もこのようにスノーボードが逞しくできれば最高であるのだが……。このミュージアムを16時18分に出る。入口には、「ソチオリンピック報道写真展 in 大倉山」とあった。



札幌ウインタースポーツミュージアム

札幌市内

16時20分、大倉山を後にする。16時43分、市電をデジカメに収める。17時15分、ロビーから荷物をもらい、604号室へ。17時半、札幌時計台の近くの「こふじ」で、北海道名産の毛ガニ、ホッケ等を頂く。アスパラもあった。生ビールの後、旭川産の男山を常温で6合、そして焼酎の水割りを飲みながら、数年振りの旧交を温める。この店で2時間位いて、タクシーですすき野界隈の Snackbar で2時間位札幌の夜をエンジョイする。ママと舞さんの真ん中に入り記念写真を撮ってもらう。あっという間に楽しい時間が過ぎ去る。長嶋さんに車でホテルに送ってもらい、ボタンキュウ。風呂水を出したまま仮眠していたのだ。風呂水の音で目が覚める。ここでもお守りのセブンに助けてもらった。

第3節 2日目：6月22日（日） 晴れ時々曇り

二日酔いにも関わらず、4時頃目が覚める。早朝、ホテルの近くのセブンイレブン（札幌北6条西1条目店）に、朝食と本日歩くエリアの地図拡大のコピーのため出向く。加えて、旭川から札幌までの地図も拡大するために。原本の地図では縮小過ぎて、見にくいからである。多少の老眼を感じる。また、新聞紙位の原本の地図だと強風の影響も受ける恐れがあるからだ。朝食を済ませ、ホテルを5時50分に出て、札幌発6時12分の電車で小樽へ。札幌駅に停車中の車両は、非電化の2両編成であった。電車の窓から、本日歩きの沿線の風景をチェックする。銭函（ぜにぼこ）、朝里（あさり）辺りで山が絡み難いそうであった。



東横イン 札幌駅



札幌駅 小樽駅



小樽駅

小樽駅には7時到着。駅舎内のステンドグラスが強く印象に残る。小樽駅前に数分滞在

し、駅前の風景をデジカメに収め、南小樽駅を目指す。7時12分、紀伊国屋があった。バスターミナルで居られた職員さんに札幌までの路筋をお伺いする。「40km位はあるよ。誰も歩いた人はいないよ」と応対あり。歩いた当初は、余市方向に行っているのではないかと不安となる。これまで何度も誤った方向に進んだ失敗話があるからだ。曇り空であったからであろう。7時23分、花銀という商店街に来て、市街地図で現在地と方向性をチェックする。確認の結果、札幌の方向に向かっていることで安堵する。7時21分、鉄道の下を潜り、鉄道の右側となる。印象に残る「三四郎」という店が目に入る。この店は車窓から見たからだ。これで自分が誤って進んでいないことを再度確認する。



小樽市内ガイド

三四郎

7時36分、量徳寺。鉄道の左側となり、駅舎の中を通り抜け、南小樽駅には7時45分到着。駅前には数台のタクシーが停まっていた。7時56分、坂を下る。7時58分、小樽商科大学の緑丘祭（6月28日～29日）のポスターを目にする。そこを少し行った先で小町湯があった。北海道には温泉が多いと聞いていたが本当であった。8時3分、勝納川（まさかえばし：75歩）を渡る。8時14分、瞬間的に快晴となる。左手にはJR線車庫、右手には函館本線となり、ここからJR構内に入るため行き止まりとなる。それ故、8時23分、陸橋を渡り、JR線の右側に出る。8時26分、白樺の並木通りを歩く。「築港」という看板を目にする。この言葉は、故郷香川の高松築港を思い出さざるを得なかった。8時29分、前方に大観覧車があった。8時31分、小樽築港駅に到着する。駅前には希望の像があった。



南小樽駅

小町湯

8時34分、東小樽線を歩く。8時41分、JR線を横切ろうとしたが、遠回りになると考え、300m位引き返す。平磯トンネルを通り抜ける。8時51分、このトンネルを出ると、曇り空

であった。8時55分、橋桁に止まった鷗をデジカメに収める。この鷗は珍しく人間を恐れなかった。9時4分、日本海が左手に広がっていた。9時9分、朝里橋を渡る。9時12分、前方に朝里駅への道路標識があり。8時29分、国道5号線から左折する。坂を下り道なり行き、JR線踏切を越えた先に朝里駅（9時29分）があった。駅は海岸に面してあった。この先は通り抜けられないととことで、先程の国道の地点まで引き返す。9時43分であった。



小樽築港駅



日本海



朝里駅

9時43分、札幌31km、銭函12kmの道路標識を目にする。ここからはひたすら山道を歩くことになる。9時50分、柎里（まさり）という交差点を通過。9時57分、札幌国道開通記念碑（H12.9）前を通過。10時18分、函館から252km地点に達する。この「252」という数値は、今執筆中の第5作目の著書“数理計算術読本”のページ数と等しかったので強く印象に残った。10時23分、神威橋（かむい：S57.10）を渡る。万歩計で286歩あった。ここからは橋のオンパレードとなる。



252 km地点 神威橋

10時29分、279歩ある清風橋（せいふう：S54.12）を渡る。10時35分、184歩ある潮橋（うしお：S55.11）を渡る。10時39分、小樽市張碓（はりす）という地名を通過。10時41分、新張碓トンネル（1,149歩：669m）を通過。10時52分、265歩ある滝の沢橋（S60.11）を通過。タンポポの落花生が前方一面にあった。10時58分、JR北海道バスの神工園バス停前を通過。11時6分、景勝園バス停前を通過。札幌26km、銭函5kmとあった。11時8分、563歩ある張碓橋（H13.3）を通過。この橋からの山と海とのコントラストがある眺めは最高であった。近くに張碓バス停があった。11時28分、前方に珍しい気球の光景に出くわす。11時49分、バス停西春日を通過。12時前、その先に「銭くろ」のラーメン屋があり入る。豚の角煮が入った味噌ラーメンを頂く。この店で20分位休憩する。昨日のスナックの弓さんから現在地の確認のメールがある。



銭函駅

12時33分、146歩ある春香橋を渡る。国道5号線から離れる。13時2分、踏切を横切る。鉄道の左側となる。13時3分、銭函駅に到着する。この駅から札幌駅まで平坦な道となる。13時52分、銭函運河線を歩く。13時55分、星置川土手を歩く。14時1分、キライチ川を渡る。橋が複雑な星流橋（131歩）を渡る。14時8分、ほしみ駅に到着。ここから道なりに歩いた先に星置駅（14時37分）があった。14時42分、5月21日に他界した“愛犬セブン”を思い出すスーパー「ラッキー」があった。14時52分、レンゲ草風があるゆったりとした歩道を歩く。車両基地がある札幌運転所で立ち入り禁止となり、西山踏切（14時58分）を横切る。JR線の右側に出る。15時3分、稲穂駅に到着する。15時6分、山口街道踏切を横切り、鉄道の右側に出る。二十四軒・手稲通りを経由し、手稲（ていね）駅には15時40分到着。駅前には熊のぬいぐるみのようなものがあった。



正面がほしみ駅



星置駅 稲穂駅



手稲駅



稲積公園駅 発寒駅

15時56分、JRバス富丘小学校前を通過。高架線となる。16時5分、稲積公園駅に到着。16時12分、追分橋を通過。琴似駅前の高層ビルが前方に見える。鉄道の右側に沿って歩く。16時39分、発寒駅に到着。16時55分、高速道路橋桁に高文連石狩支部西地区美術部合同

チーム(札幌西高・手稲高・稲雲高・拓北高・清田高)が描いた桜・チュリップ・鳩前を通過。17時11分、発寒中央駅に到達。17時16分、高架側道4号線を歩く。17時28分、肌寒くなり上着を着る。17時32分。あゆみ橋辺りから高架線路となる。



発寒中央駅 高校生合同の絵画

17時41分、高層ビルを背後もつ琴似駅に到着。この駅から駅前が急に町らしくなる。駅前にはイトーヨーカ堂があった。17時59分、花ゆづき(ゆ)前を通過。18時1分、マルハン前を通過。卸の敷地があり、方向転換する。JR下(18時6分)を潜り、JR線の左側となる。桑園(そうえん)駅には、18時26分到着。札幌駅には19時到着。19時14分、「味の時計台」で本日2回目の味噌ラーメンを注文する。926円要する。小樽までの運賃が640円、朝食代が221円、昼食代が750円要する。



琴似駅



桑園駅 札幌駅

19時42分。ホテルに戻る。本日は二日酔いと風邪気味であったが。無事、33.8kmを踏破する。万歩計は72,334歩だった。充実した一日を送ることができた。20時から大河ドラマをみることができた。巨人がソフトバンクを破り、16勝8敗で交流戦優勝を決める。2

年前を思い出す。アルコールは本日飲まず、明日に備える。味の時計台で夕食のみ。



札幌駅 味の時計台

第4節 3日目：6月23日（月） 晴れ

本日は、東横インで朝食を摂る。7時26分、チェックアウトする。札幌発7時48分のスーパー宗谷1号で滝川に向かう。4両編成であった。指定席は満席であったので自由席とする。運賃は2,770円で、うち乗車券が1,640円、特急券が1,130円要する。自由席は2号車と4号車であった。稚内まで行く電車とあり、自由席も車内は殆ど満席の状態であった。途中、岩見沢、美唄、砂川に停車。滝川駅には8時41分に到着。

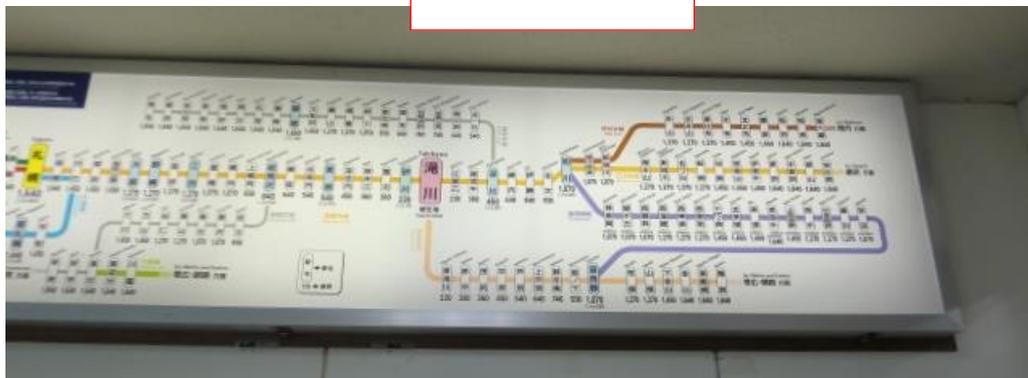


深川まで途中踏破駅は、江部乙駅 妹背牛（もせうし）駅の2駅だった。滝川から深川までの営業キロは23.1kmで、当初の予定では最も短い距離であった。長嶋氏のお話によると、江部乙駅と妹背牛駅の間には石狩川が介在し相当難しいとの下見報告を頂く。それ故、相当骨が折れる大変なコースと自覚する。加えて、電車でこのコースは見えていないので一

層の難しさを感じる。駅前の顔を色々デジカメに収める。情熱の像あり。國學院大學短期大学のスクールバスが停まっていた。寂れかけたシャッター通りを歩く。かつてはデパートもあったようだが、今は閉鎖。9時8分、北門信用金庫前を通過。9時14分、招き猫と犬の像前を通過。9時20分、単線の線路に出くわす。この線路を函館本線と錯覚する。実際は帯広方面の線路であったにも関わらず。ここで暫く頭が混乱する。9時26分、鉄道を横切る。この鉄道を函館本線と思い込む。それ故、この鉄道に沿って歩こうとするが、幹線道路は見当たらず。何人もの通行人に聞いて、今歩いている国道12号線を直進すれば、深川方面に行けることを確認する。しかし、依然先程の鉄道を函館本線と思い込む。9時31分、札幌まで88km地点に到達する。この辺りでやっと、先程の鉄道が帯広方面に向かう線路と理解する。



滝川駅



滝川市内 根室本線

9時33分、滝川市立滝川第一小学校前を通過。9時56分、北海道滝川工業高校前を通過。10時13分、滝の川町西4で深川・旭川の看板を目にする。10時22分。旭川46m、深川121

kmの道路標識があった。10時55分、空知中央バス9丁目バス停前を通過。10時56分、江部乙西9という地名で羽衣橋通過。11時34分、江部乙駅にやっと到着する。駅前にはえべおつ温泉ホテルがあった。暫く、鉄道に沿って右側を歩く。11時58分、麦畑があった。



江部乙駅への路



羽衣橋



江部乙駅



えべおつ温泉

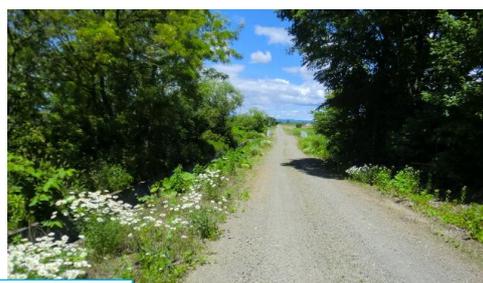
12時31分、アスファルトから砂利道となる。12時41分、川が絡み、鉄道を右に離れて行く。ここから、石狩川の洗礼を受けることになる。砂利道を歩く。この近郊で、数日前にコンビニでコピーした大切な地図をロストする。それにしてもよくウォーキングでロストするものだ。代表的な事例が、数年前の関ヶ原界限での財布・青春18きっぷロスト事件だ。



広大な大地

12時59分、石狩川の土手を歩く。遥か向うに石狩川を渡る橋(妹背牛橋)が見えて来る。しかし、この橋を渡るのに骨が折れる。行っても行っても土手が続き、橋につながる道には出ない。13時7分、草がぼうぼう茂る歩きにくい土手の道筋となる。13時10分、歩きやすい農道に道筋を変更する。しかし、依然として、妹背牛橋に続く道筋には出ない。紆余曲折しながら、疑心暗鬼で進む。そのうち、土手のジャングルに突入する。それでも、

大きくカーブしながら道なりに沿い歩く。13時18分、赤橋を渡る。その先で、右の土手か左の土手に進むか迷う。これまでの経験を生かし、左の土手に進むことにする。依然、草が茂る土手が続く。13時43分、やっと前方に妹背牛橋が見えてくる。少しは安堵するが、依然疑心暗鬼が続く。このような体験をするのは、平成12年5月からウォーキングをはじめて以来初めてである。大きな理由は未知の大地である北海道歩きであることもあろう。もうひとつは、レールウェイの地図を持ち合わせていないこともあろう。このレールウェイの北海道版は首都圏の本屋を何件か当たってみたが、増刷していないということで物理的に入手できなかった。加えて、地図をロストしたこともあろう。



鉄道沿線を歩く



赤橋

石狩川



妹背牛橋

13時45分、石狩川に跨る空色の妹背牛橋に到達する。万歩計で980歩あった。橋を越えるや否や土手沿いを歩く。前方2km位先に12時50分頃見た鉄道の橋が見えて来る地理関係を確認し、土手歩きは遠回りだと判断し、最初の路に下りる。大きく線路をカーブして、この路筋に接近して来る。14時5分、右手に電車を見つけ、やっと自分が深川方面に間違いなく進んでいることを確認でき安堵する。実に1時間半位の不安な時間が続いた。14時13分、今度は上り電車を左手先に見つけ安堵する。14時25分、まもなく前方に駅らしき施設が見えて来る。しかし、駅に繋がるような道は全くなし。それ故、鉄道を横切り、1m

強あるホームにリュックを背負って這い上がる。結構筋力を要した。無人駅のホームを出た先に、妹背牛駅（14時32分）があった。駅舎内をデジカメに収める。そして、駅周辺の風景もデジカメに収める。先程の道筋の風景とは大きく異なっていた。長嶋さんの下見コメントを思い出したからだ。すなわち、突然街並みが続くことを。



妹背牛駅



14時51分。JR線の超える妹背牛跨線橋を横切る。鉄道の右側を歩く。14時56分、旭川37km、深川7kmの道路標識を目にする。15時1分、「47深川／雨竜線」の道路標識前を通過。15時11分、深川市に入る。15時20分、神居古潭19km、深川市街5kmの道路標識前を通過。15時23分、頭上を2羽のからすを見かける。それにしても、今回の旅は、からすとの対面を強く感じた。15時35分、ローソンに入り、菓子パンを購入し、遅い昼食代わりとする。15時45分、高速道路下を潜る。その先に深川留萌道深川西という標識があった。47号線を歩く。16時13分、故郷の多度津と志度をもじった「多度志」という標識前を通過。16時23分。旭川32km、深川駅2kmの道路標識を通過。16時20分、旭川ラーメン店を通過。その先に北海道深川西高校があった。16時28分、生きがい文化センター前を通過。16時38分、3条5番という交差点を通過。16時50分、やっと深川駅に到着する。



深川留萌道 北海道深川西高



深川市内



深川駅

各駅の電車が行ったばかりとのことで、17時6分発のスーパーカムイ27号で旭川も目指す。乗車券640円、特急券620円要する。電車の窓から旭川までの風景を見て驚く。トンネルの連続で驚く。旭川駅には17時29分に到着。旭川は大学以来の訪問で多少懐かしさを感じたが、当時の風景とは全く異なっていた。東横イン旭川駅前一条通(607号)には、17時48分到着。3日分の宿泊代17,250円を支払う。昨年と比べ、消費税が5%から8%に上がったこともあり、宿泊代が何となく大きくアップ(2,000円位)したような気がする。夕食は駅前の“名人傍”という蕎麦屋で冷やしたぬきとビール(1,050円)を注文する。本日の営業キロは23.1km、万歩計で34,506歩であった。それにしても、本日は、石狩川が絡み醍醐味あるウォーキングを堪能させて頂く。



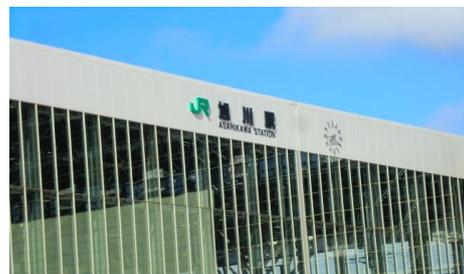
深川駅



東横イン旭川駅前一条通



名人傍



旭川駅